



昔から親しまれてきた「三嶋豆」。白や緑の衣を纏った大豆は、素材本来の味わいが口いっぱいに広がる味わい深い逸品です。こいつが手が伸びて、ポリポリと食べさせていただきますね。

その始まりは明治の初め。「三嶋豆」や「錦豆」という名前で、地域住民に親しまれていました。

当時、白砂糖は高級品であったため、年取り(\*)や新年などの特別な日や大切な人への土産にも使われていたといわれています。

今でも年取りなどこの三嶋豆を「まめ」で、がやがや」と言って食べる習慣が残っています。

\*年取り：大晦日に年を取ることを祝う儀式。飛驒地域では年取りに塩ぶりや煮イカを用意する家庭が多い。

飛驒匠のDNAを受け継ぐものづくりのまち  
**メイド・バイ飛驒高山認証**

市では、飛驒高山ブランドコンセプトに合う独自性と信頼性の高い地場産品を「メイド・バイ飛驒高山認証産品」として認証しています。ものづくりの匠たちの熱い思いに触れてください。

No.23  
**三嶋豆**  
 高山菓子組合

# 今年も一年、みんなが「まめ」で。

現在、市内で三嶋豆を製造販売している店舗は、長瀬久兵衛商肆(上之町)、打保屋(久々野町柳島)、藤友屋(末広町)の3社。

長瀬久兵衛商肆の代表取締役 長瀬公昭さんは、「3社でそれぞれが大切に作っています。食品添加物を一切使っていない『自然の味』を楽しんでほしいです」と話します。

昔ながらの三嶋豆に加え、現在は山椒、お茶、シナモンなど、19種類の味が楽しめます。

年末年始は、美味しい豆を食べながら、ご家族そろって「まめ」にお過ごしください。



▲緑は青のりによる自然の色で、着色料は一切使用していない。また、乾燥剤がなかった時代に、青のりがその役割を果たしていました。

**市長室へようこそ**

●市民と市長の面談日  
**1月26日(水) 13:30~16:15**

\*事前にご予約ください  
 \*新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止する場合がありますのでご了承ください。

市長室直通FAXもご利用ください FAX●36-2060  
 問合せ 秘書課 ☎35-3130

**ご意見・ご提案をお寄せください**

市民が主役のまちづくりを進めるため、市政へのご意見やご提案を受け付けています。

【方法】

- ①ファクス 35-3174へ[FAX]
- ②Eメール [HP](#)のお問い合わせフォームから送信

\*Eメールで回答をお送りする場合がありますので、送信元ドメイン「city.takayama.lg.jp」の受信許可を設定してください。

- ③ご意見箱 本庁・各支所のご意見箱に投函

問合せ 税務課 ☎35-3626

**義援金の募金箱を設置しています**

市では、被災された方を支援するために、インフォメーション(本庁1階)と各支所地域振興課に義援金箱を設置しています。

集まった義援金は、日本赤十字社岐阜県支部を通じて被災された方々に届けられます。

義援金名称	募金箱設置期間
令和2年7月豪雨災害義援金(福岡県、熊本県)	令和4年 3月31日(木)まで
令和3年8月大雨災害義援金(福岡県、佐賀県)	
令和3年長野県茅野市土石流災害義援金(長野県)	

\*配分先は変更される場合があります。

問合せ 日本赤十字社高山市地区事務局(福祉課内) ☎35-3356